

いかにして幅のある人間になるのか

A1（人工知能）の注目度が日増しに強まっている。平成27年にアルファ碁がプロ棋士を破ってから、拍車をかけてA1開発が進んでいるようだ。将来、人間の仕事がA1に取って代わられるなど、危機感を持たざるを得ない業種もあるようだ。そのような時代に、我々はどんな能力に注目すべきか考えてみたい。



仕

事柄、多くの若手社会人や大学生と会食をする。一人ひとりに自己紹介を交えて様々な話をしてもらおう。彼らが興味を持っていることの1つが、人間力を身につけたいということだった。後日いただくメールや手紙の中の共通した感想に、私の話には「幅がある」ということだった。教育者としては、どうすれば彼らに人間的な幅を持たせられるのかと考えてしまう。もちろん彼らとは人生経験が20年以上違うので、単純に現在の自分とは比較することではないが、同じ20歳頃までの経験もいまの自分を作っていると思った。

実家は、兼業農家で、魚の移動販売や室館商店という雑貨屋も営んでいる。雑貨屋は、いまは1年の半分は閉めているが、私の学生時代は年中無休で朝6時から21時までやっていた。田舎によくある店と居間がガラス戸一枚でつながっていて、筒抜けの店構え。朝、アルバイトの新聞配達から帰ると、近所のじいちゃん、ばあちゃん、おじさんやおばさん、問屋の兄ちゃんなど、誰かしらが居間でお茶を飲んでいた。昼ご

飯と一緒に食べることもあった。

そこで出てくる話題は本当に様々。大人と一緒にいることで自然と幅広い話題に触れていた。噂話も含め「あの人は…」というような人に関する話題も多かった。そこで自然と好かれる人と嫌われる人などを学んでいたのだと思う。いま考えればとてもありがたい環境だった。18歳で上京して、19歳から教育者の道を歩む中で、幅広い世代、幅広い話題に触れていたことは、同世代とだけしか接していない若者よりは、幅を広げる土台になっていたのだと思う。

若

者は新聞を読まないと言われていた。私も苦手だった。しかし仕事柄、読むことを勧められ、読むようになって明らかに変化があった。全部読まなくとも一面にはどんな記事が取り上げられているか。写真と見出しを見るだけでも違う。そして二面、三面と写真と見出しを見ていく。なんとなく世の中で何が話題なのかを掴めてくる。注目は広告欄。新聞の広告欄は数百万円から数千円円する。広告欄でニーズの

あるものがわかる。ただし、新聞読者はご年配が多いため、ご年配を対象とした商品や週刊誌の広告が多い。いまでは8紙を1時間以内で読んでいます。ネットもいろいろ、新聞をめぐることで同世代とは話題の幅に差がつくだろう。一紙でも読んでほしい。

この度、久しぶりに拙著『応援される人になりなさい』が出版されたが、大学生と話すと「本はネットで買います」という人がばかりで、書店に行かないという人が多い。是非、書店に行ってみてほしい。本のタイトルを見るだけでも、いまだどんな本が話題なのか分かるだろう。ネットで目当ての本だけを見るよりも、書店に行けば運命の出会いがあるかもしれない。これも人間の幅を広げる一助になる。

いまやコンピュータが好みを分析して、予測して、商品やサービスを提供してくれる本当に便利な世の中だ。しかし、人間の幅という観点で考えれば、新聞、書店、テレビ放送、タイプの違う人との交流、会食などで、自分一人では持てなかつた観点を学ぶことが幅を広げる上ではオススメだ。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室館 勲
Murodate Isao

1971年青森県に生まれる。2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。2007年ブータン王国王立マネジメント大学にて講演。就活支援「プレミアムスタイル」は2017年4月入社の内定率99.38%を達成。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「「応援される人」になりなさい」(ワック)がある。